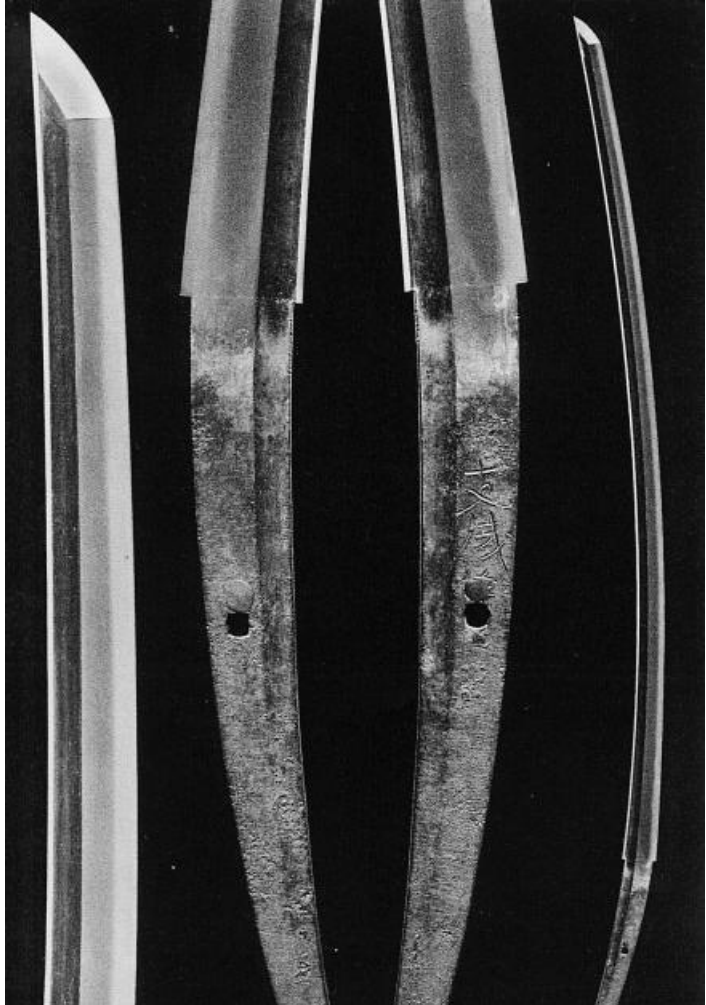




国宝 太刀 銘 友成作 長船町史 刀剣編図録から

世界に誇る鉄の芸術 刀

1,000年の伝統受け継ぎ今に

長船は刀剣のまち。平安時代から続くその歴史は、吉井川の水運によってはぐくまれました。上流でつくられた鉄は、船で長船まで運ばれました。吉井川と山陽道との交差点に当たる長船に大勢の刀鍛冶が集まり、一大刀剣王国を築き上げました。平安時代末期から室町時代末期にかけ

ては抜群の技術力で、質・量共に日本の作刀の中心地として全国にその名をはせ、「鍛冶屋千軒」とうたわれるほど繁栄しました。まちは、「長船」と「福岡」という2つの作刀地がありました。「一文字派」との別称を持つ福岡の刀鍛冶は、平安時代末期から鎌倉時代中期に

かけ栄えましたが、鎌倉末期に衰退。長船派は、室町時代末期の吉井川の大はんらんで壊滅的な打撃を受け、昭和5年、直系の刀鍛冶が絶えてしまいました。昭和20年、刀鍛冶がいなかったことを嘆いた有志が刀匠を招き、再び鎚音がこの地によみがえりました。今日では、伝統の地に集まった刀工や研師たちが修行に励み、1,000年の伝統を誇る技術の継承に努めています。長船町時代、町の誇り刀剣を再認識しようと、「備前おさふね刀剣の里」を整備。刀剣を常設展示する全国でも珍しい博物館や刀剣づくりの作業工程を間近に見ることのできる工房などで、刀剣の魅力を味わうことができます。「特徴がないのが特徴」といわれ、「折れ曲がらず、切れて、美しい」備前刀。この長船の地で生まれ、芸術性や精神的要素を秘め、世界に誇れる備前長船。脈々と受け継がれる伝統ある長船は、わたしたちの誇りです。

地域を深く知り 市外の皆さんにPRを
8年前独立し、2年前に長船に仕事場を作りました。備前福岡一文字を再現したいと頑張っています。今年の春、山陽新聞主催「地域にエール いきいき瀬戸内」のバネリストとして発表することになり、海遊文化館に行ったり資料を集めたりして、地域のことを勉強しました。邑久も長船も牛窓も素晴らしいところです。県外の方がこの地域は魅力があると言ってくれます。自分たちが思っている以上にここは素晴らしい地域。人は外のことを知たがろうとします。外のことを知るの大事だけれど、まず、地元のことを知ってもらうたい。特に、小・中学生には市内のことも勉強してほしい。地元のことを愛することは、すごく大切なことだと思います。地域を深く知り、市民の皆さんから市外の皆さんにPRしてもらえよう、わたしも自分のやれることを続けていきます。



トム岸田撮影

川島一成さん
(35歳・長船町東須恵)
高知県生まれ。高校卒業後、岐阜県・東京都で6年半、刀作りの修行を積む。平成8年、備前長船刀剣博物館鍛刀場入り。15年、長船に川島正城日本刀鍛錬場建設。備前伝一文字を目標に、鍛錬の日々が続く。



瀬戸内市所有の『魚つる子ら』。地元の千町川で糸をたらしているのは、夢二自身だといわれています



若かりし日の竹久夢二 (夢二郷土美術館提供)

大正時代一世を風靡した竹久夢二が こよなく愛したふるさと邑久

大正ロマンの叙情的画家として一世を風靡した竹久夢二は、本名を茂次郎といい、明治17(1884)年、邑久郡本庄村(現在の瀬戸内市邑久町本庄)で生まれました。16歳までの少年時代をここで過ごし、夢二の原点となった生家は、現在夢二郷土美術館分館として公開されています。

今もなお人気のある夢二は、独学で絵を学び、21歳で挿絵画家としてデビュー。明治42(1911)年に出版した『夢二画集 春の巻』が大当たりし、人気は一気に上昇します。画家として全国に名をはせ

た夢二ですが、約1、200もの詩も残しています。叙情的な「宵待草」が有名です。特有の美人画で有名な夢二。最初の妻たまき、運命の人彦乃、代表作「黒船屋」のモデルお葉のほかにも、母親と姉・松香の存在が夢二の絵に大きな影響を与えているといわれています。

夢二は、ふるさとをこよなく愛していました。夢二作の『夢のふるさと』に「わたしの村」という詩があり、「股の下から麓をみれば さても絵のよなよい景色 この町かときいたらば それはわたしの

本庄地区には、竹久夢二・正富汪洋・古武弥四郎などの有名人が出ています。素晴らしい人物に加え、ゆかりやいわれのある神社・仏閣もあります。しかしながら、案外皆さんは地元のことに関心がないように思われます。

去年は、竹久夢二生誕120年に当たり、本庄の偉人・夢二を風化させることがないよう、地元でも多くの行事を行いました。本庄コミュニティ協議会は、IT教室を実施していることもあり、夢二ゆかりの場所など周辺散策用のガイドブックを作成。多くの皆さんに素晴らしい財産があることを知ってもらいたいと思います。来年からは、邑久町史の資料を参考に、本庄版の「本庄地区史跡名所案内」の作成に取り組む予定です。郷土の歴史をすたれさせてはなりません。資料として残し、後世に伝えていきたいと考えています。

村でした」とあります。瀬戸内市所有の「魚つる子ら」は大正初期のもので、着物姿で帽子をかぶり地元の千町川で釣りをしているのは夢二自身だといわれています。市内にも夢二を意識して造られたものが幾つかあります。茶色のレンガ造りの邑久町公民館もその一つ。市役所から邑久高校までの通りは大正ロマン通りと名付けられ、ガードレールや街灯もそうです。

夢二は昭和9(1934)年、病に倒れ生涯を閉じました。少年山荘は、夢二自らの設計で東京世田谷に建てられたアトリエを復元したもの。夢二の生家とともに今も県内外から大勢の人々が訪れています。